

そして  
1914年

待ちわびた日が  
やってきた

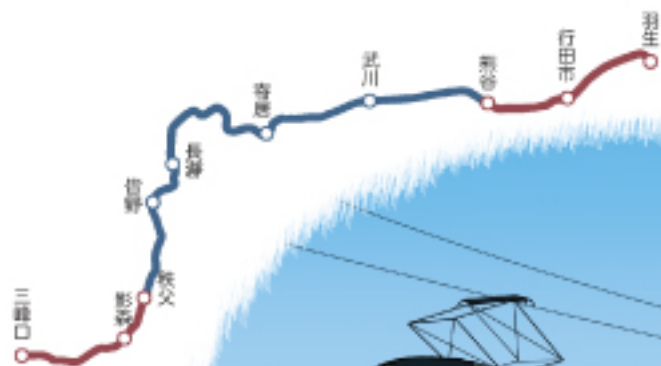
秩父駅まで…

開通だ！

熊谷を起点に  
工事を始めて  
15年あまり

上武鉄道の秩父延伸は  
盛大に祝われ

1週間にわたり  
熊谷と秩父間の  
全線で運賃半額で  
運行するなど  
お祭り状態であった



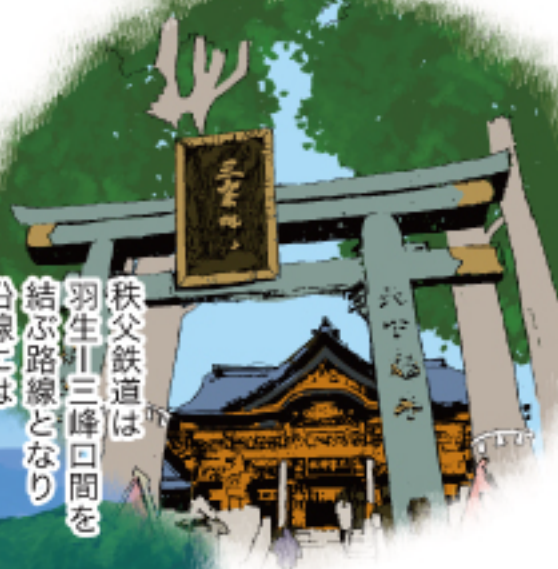
セメント産業が盛んになると  
秩父鉄道は産業路線として  
さらに発展した



- 1917年
- 1922年
- 1923年
- 1930年
- 1939年

秩父ー影森間が開通  
北武鉄道と合併  
(羽生ー熊谷間)  
秩父セメントが設立  
影森ー三峰口間が開通  
三峰ロープウェイが開業

秩父鉄道は  
羽生ー三峰口間を  
結ぶ路線となり  
沿線には  
観光地も増えていった



大宮町は  
1916年  
秩父町に改名

同時に上武鉄道も  
秩父鉄道と  
名称を変えた



# 秩父

秩父まで鉄道が  
通ったことで  
町はより賑わい  
活気があふれた





生まれ変わった汽車は  
「SLパレオエクスプレス」と  
名付けられ

都心から一番近い  
蒸気機関車として  
活躍している



パレオとパレナという  
マスコット  
キャラクターも  
誕生し  
親しまれている



秩父鉄道は  
全国的にもいち早く  
電化に取り組み

1922年には  
汽車から電車に  
代替わりしていた



1988年には  
熊谷で開催された  
「さいたま博覧会」の  
開催にあわせ

吹上小学校に  
保存されていた  
蒸気機関車が復活

# 秩父鉄道は、皆様のおかげで 120周年を迎えることができました。



「生活」「産業」「観光」の3つを柱に秩父鉄道は発展してきました。  
柿原萬蔵から受け継いだ「郷土をより豊かに」の精神のもと、これからも  
沿線地域の皆様とともに歩んでまいります。  
これからも秩父鉄道をよろしくお願いたします！

## <参考文献>

- 秩父鉄道の100年
  - 創立110周年記念企画 秩父鉄道110年の軌跡
  - 秩父の民俗
  - 近代日本の地域発展と鉄道 秩父鉄道の経営史的研究
- 鉄道と地域の社会経済史
  - 秩父鉄道沿革史
  - 秩父鉄道五十年史
  - ほか



※史実や記録に基づいて編集しておりますが、一部フィクションも含まれます。



鉄道を走らせるという  
大きな夢を抱き  
成し遂げた  
柿原萬蔵と定吉

そして  
それを支えた  
多くの人々

その努力の結晶が  
今も沿線地域を  
賑わせている——

おわり